



地域とつながるボランティア

校長 横枕 耕史

春江中学校では、中学生と地域を直接結びつける特色ある活動として、生徒の自己有用感と自己肯定感を得る機会として**ボランティア活動**を推進しています。ただし本校のボランティアでは教員の働き方改革を推進するため、教員が休日に生徒を引率してボランティアをさせることはしていません。学校が地域と生徒をつなげる「ハブ」のような役割となり、地域から依頼されたボランティア募集の通知を生徒に周知し、呼びかけに応じ自ら主体的に参加する生徒を集め、ボランティア主催の地域の方が生徒に仕事内容を直接伝え、生徒と地域の人がつながり顔見知りになって、各ボランティアに参加する仕組みになっています。ボランティア当日、参加生徒は学校キャラクター「はるん」が描かれた**ボランティアTシャツ**を着て参加しています。生徒は、ボランティア活動を通して地域の方と直接つながり顔見知りになり、地域貢献や地域活性化の意識が高まり、地元愛が深まっています。さらには生徒の保護者も巻き込み、地域の活性化につながることを期待しています。

これまで、各町会・自治会主催のお祭り・盆踊り・防災訓練、春江小オータムフェスティバル、新堀小運動会など数々の催して運営のお手伝いや演者としてボランティア活動を行ってきました。

最近では「秋の区内一斉美化運動」の一環で11月14日放課後に美化委員とボランティア生徒計38名で本校周辺の公園や歩道のゴミ拾いを行いました。参加生徒は軍手を装着し、次から次にとタバコの吸い殻、空き缶、ペットボトルなどを**街角にある残念なゴミ**を見つけ一つ一つ拾いました。生徒は、「なぜ人はゴミを平気で捨てるの?」「バレなきゃいいってわざわざ歩道の植込みの奥深くにゴミを隠すように捨てるの?」「歩きタバコを排水溝になんて捨てるの?」「吸い殻をねじ込んだ空き缶なんか捨てないでよ!」

などとやるせない怒りも覚えながら路上のゴミを通して、人の**道徳心**や**マナー**について深く考えました。

また、本校では**防災教育**にも注力しています。災害などが昼間に起こった際、地域には大人が不在となります。中学生が支援者として地域で活躍する人材になることを目指しています。11月12日(火)には1年生対象に**HUG(避難所運営ゲーム)**を実施し避難所の在り方について学びました。11月16日(土)には**防災教室**を実施しました。地域の町会・自治会をはじめ、東京消防庁瑞江消防署、江戸川区危機管理部地域防災課防犯防災係、江戸川区東部区民事務所地域サービス係、春江中学校避難所開設委員、自衛隊新小岩事務所など大勢の方を講師に**自助**や**共助**を中心に**地域防災**について実地体験や訓練をしました。代表生徒からは「防災訓練で、火災が起きた時の対処法やAEDの使い方などを学ぶことができ、いざ自分の身に災害が起こってしまった時の行動の仕方がわかりました。そして、私たち中学生は、自分を助ける「自助」だけでなく、地域の人たちと協力して周りの人を助ける「共助」も行っていきたいと思います。いつ起こるかわからない災害に備えてこれからも勉強を続けていきます。」と力強い感想がありました。この本校の防災教育の取組が東京消防庁より評価され「**第21回地域の防火防災功労賞 優良賞**」を受賞することになりました。

中学校を卒業すれば生徒一人一人は上級学校への進学や就職など人生の節目で地元を離れて行きますが、春中生が大人になったとき、それぞれが住む場所、**ともに生きる人たちのために、地域を支える一員**として活動し貢献してくれることを期待します。春江中学校は、今後も**地域の教育力とつながるボランティアマインドの醸成**のための活動を継続・発展させていきます。